令和６年３月　教育委員提案

戸田型オルタナティブ・プランについて
～「誰一人取り残されない」教育の実現に向けて～

戸田市教育委員会
教　育　政　策　室

戸田型オルタナティブ・プラン～誰一人取り残されない教育の実現～

◆小さなサインを「科学の視点」で見つけ出す
◆「未然防止」「早期発見・早期対応」「適切な支援」のための選択肢

1 人

戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」設置事業

不登校を**支援**する



県立戸田翔陽高校内教室との連携

オンラインの学びの場の活用

- **戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」**設置（3校）
- 小中学校スクールサポーター配置による学校・家庭支援の充実
- ICTを活用した学習支援や教育相談の推進
- 教育支援センター「すてっぷ」、教育センター等との連携
- **埼玉県教育委員会との連携 支援教室「いっぽ」**
- **認定NPO法人「カタリバ」との連携によるオンラインを活用した教育相談**

2 データ

不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」設置事業

不登校を**科学**する



戸田市教育政策シンクタンクとの連携
全人的な教育を科学の視点で捉え、支える

スタンドバイ株式会社との連携

デジタル庁実証事業に採択

- 専門家による**不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」**設立
- **本市の不登校対策・支援に関する調査・研究・評価**
- **アンケート等を活用した調査・分析・予兆の発見**
- **不登校と学力面・情意面との関連に係る研究**
- 各学校や相談室での不登校に関する取組への指導・助言

3 連携

社会に開かれたネットワーク構築事業（シンポジウム）

不登校を**理解**する



社会の認識を促し、協働の機運醸成を図る

- **地域や保護者を対象としたシンポジウム**の開催
- ぱれっとルームでの地域人材や学校応援団等との連携の促進
- ぱれっとラボへの不登校経験者の招聘
- 研究成果レポートの作成・公開

戸田型オルタナティブ・プランの更なる推進
（令和５年度）　～誰一人取り残されない教育の実現～

◆ 「未然防止」「早期発見・早期対応」「適切な支援」のための選択肢
◆ 「リアル」と「デジタル」の両面からの支援の充実、各居場所の有機的な連携の強化

1 多様な学びの場の拡充 不登校を支援する

児童生徒の心理的安全性を高め、学びに向かえる場所の選択肢を拡充

市長部局など関係機関との連携

- 戸田型校内サポートルーム**「ぱれっとルーム」を、年度当初から小学校全12校に設置（全小学校へスクールサポーターを配置）**
- 教育センター内にある**「すてっぷ」を別の拠点（西部）に1教室増設**
- 総合的な不登校対策により、それぞれの場の**有機的な連携を強化**



2 不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」の取組深化 不登校を科学する

戸田市教育政策シンクタンクとの連携
全人的な教育を科学の視点で捉え、支える

こども家庭庁実証事業に採択

- 不登校対策ラボラトリー**「ぱれっとラボ」による効果検証**
- 各学校や相談室等での不登校に関する取組への指導・助言
- **「教育総合データベース」**事業による、誰一人取り残されない、子供たち一人一人に応じた支援の実現
- **アンケート**等を活用した調査・分析・**予兆の発見**
- 本市の不登校対策・支援に関する調査・研究・評価



3 社会に開かれたネットワークの構築（教育相談体制を拡充） 不登校を理解する

地域や保護者の理解を深め、協働の機運醸成を図る

委託・連携事業等との関係強化

- 「戸田市**不登校について考える会**」の実施
- 教育センターの教育相談対応時間の拡充
  （各小中学校でのスクールカウンセラーによる教育相談の他、教育センターでの心理カウンセラーによる相談を、**土日に加え週１回平日夜間にも相談**できる体制を整備）
- 民間との連携による、オンラインを活用した相談及び支援体制の強化



多様な学びの場の選択肢

小学校

ＳＣ・ＳＳＷ・
スクールサポーター
と連携



教室
ぱれっとルーム
R4 NEW

自宅



中学校



ＳＣ・ＳＳＷ・
スクールサポーター
と連携

教室
さわやか相談室

オンラインの
授業参加も

埼玉県立
戸田翔陽高校内
R4 NEW



生徒支援教室
いっぽ

メタバース
R4 NEW



（認定NPO法人カタリバ）
room-K

教育支援センター



戸田市立
教育センター
「すてっぷ」

R5 NEW



西部福祉センター
（通称「西すてっぷ」）

戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」

1 戸田型校内サポートルーム設置事業

不登校を「支援」する
不登校傾向にある児童生徒を早期支援する

小学校12校中３校に設置→**全校に拡大**（令和４年１１月開室）

【趣旨】**誰一人取り残されない教育の実現**に向け、学校生活上、不安や困難を感じている児童や不登校傾向児童への多様な居場所の確保による早期対応・早期支援



ぱれっとルームイメージ

【活用例】
①何らかの理由により教室に行きづらい児童の生活や活動の場
②一時的にクールダウンが必要となった児童の居場所
③教職員やスクールカウンセラー等の教育相談の場

【連携に関する取組】
①校内研修での共通理解
②保護者への周知
③担当者本人の対応力向上研修

モデル校での成果・期待される効果

- 昨年度まで**不登校であった児童が登校**しており、長期欠席者の減少が見られる。（令和４年８月現在）【教室復帰の契機】
- 各校**３～４名程度**の固定的な利用がある。【確かなニーズ】
- ぱれっとルームで過ごしつつ、学級の授業に出られているケースがある。【家でも教室でもない第３の居場所】
- オンラインで在籍の授業に参加することができる。【学びの場の選択肢】



個別の学習スペース



オンラインで授業に参加したり、絵を描くなどの個別の活動をしたりします。

戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」

1

多様な学びの場の拡充
不登校を支援する
児童生徒の心理的安全性を高め、学びに向かえる場所の選択肢を拡充
市長部局など関係機関との連携

【趣旨】誰一人取り残されない教育の実現に向け、学校生活上、不安や困難を感じている児童や不登校傾向児童への多様な居場所の確保による早期対応・早期支援

【活用例】
①何らかの理由により教室に行きづらい児童の生活や活動の場
②一時的にクールダウンが必要となった児童の居場所
③教職員やスクールカウンセラー等の教育相談の場

【連携に関する取組】
①校内研修での共通理解
②保護者への周知
③担当者本人の対応力向上研修



各校の工夫・実践例

○児童の実態に応じて個別スペースと協働スペースを選択できるようにする。
○プリントやホワイトボードを活用し、児童自身が１日の過ごし方や学習の計画を立てる。
○常に在籍学級とオンラインでつなぎ、児童と学級（担任等）の関係を切らさないようにする。
○外部人材を招聘した講座の開催。
○体育館での運動など、ぱれっとルーム以外での活動の実施。







成果

・不登校状態にあった児童が登校することができた。複数年にわたり不登校であった児童も登校につながった。
・教室での生活が難しくなった児童が一時的に利用することで、再び教室で生活ができるようになった。
・ぱれっとルームで友達ができたり、異学年児童と交流することを通して、帰属意識や自己肯定感の向上につながったと考えられる。

課題

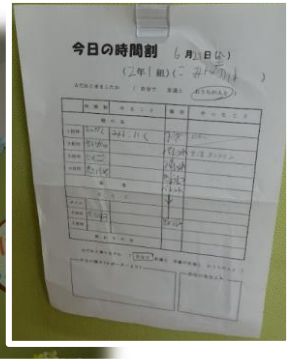
・ぱれっとルームについて校内で共通理解を図り、支援体制を確立すること。
・ぱれっと利用児童やその保護者と担任等が関係を切らさないよう、関わりを密にしていくこと。

【利用児童数】
R４：１０１名
R５：　９４名（R6.2.2現在）

戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」

戸田第一小学校







戸田第二小学校



新曽小学校



美谷本小学校



戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」

笹目小学校







戸田東小学校



戸田南小学校





喜沢小学校



戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」

笹目東小学校



新曽北小学校



美女木小学校



芦原小学校



戸田市教育支援センター　すてっぷの特色について

特色１　戸田市の不登校対策の拠点

◆不登校支援の専門的知見を活用した教室運営
◆居場所、学習に適した環境の整備
◆不登校支援の専門家による教育相談
◆教育相談コーディネーター・SSW・SCとの連携
◆総合的な不登校対策会議・教員研修運営支援





特色２　一人一人に応じた支援プログラム

◆不登校児童生徒に適したカリキュラム編成
◆豊かな情操と社会性を育む体験活動
（農業・体育・調理・絵手紙作成・茶道　等）
◆個々の可能性を伸ばす先進的な学びの支援
（プログラミング・STEAM教育）

特色３　不登校児童生徒の保護者支援

◆保護者の希望に応じた専門家による教育相談
◆「保護者とともに不登校について考える会」協力
◆すてっぷ通級状況を踏まえた保護者会の実施





特色４　アウトリーチ型支援の実践

◆教育相談コーディネーター、校長、家庭との連携
◆保護者の希望に応じた家庭訪問支援の実施
◆個に応じた学習や生活支援プログラムの実施

戸田市教育支援センター　すてっぷの特色について





【登録児童生徒数】
R４：　４０名
※常時１０名～１５名が利用

戸田市教育支援センター　「西すてっぷ」

戸田市教育支援センター

★ 西すてっぷ ★

児童生徒みなさんのための多様なニーズに応じた学校外での学びの場です。

個別学習

プリント学習をメインにそれぞれのペースで学んでいます。
勉強が苦手でも大丈夫。自分のペースで進められます。

体験活動

調理実習や野菜栽培、制作、運動など様々な活動に取り組んでいます。
調理実習では、月見団子、和食、クリスマスメニューを作りました。

個別相談

何か困ったことがあったときは先生たちがカになります。
いつでも相談してくださいね。

場所
西部福祉センター　第３会議室
（戸田市美女木5-2-16）

開校日時
毎週月～金曜日　9:30～16:00
（月・木は15時まで）
※学校の長期休業日はお休みです。
また、毎月第2、4、5月曜日は
休館日のためお休みです。

問い合わせ先
TEL：048-434-5660
（戸田市立教育センター）

公民館まつりの展示品





○令和５年８月２５日開室

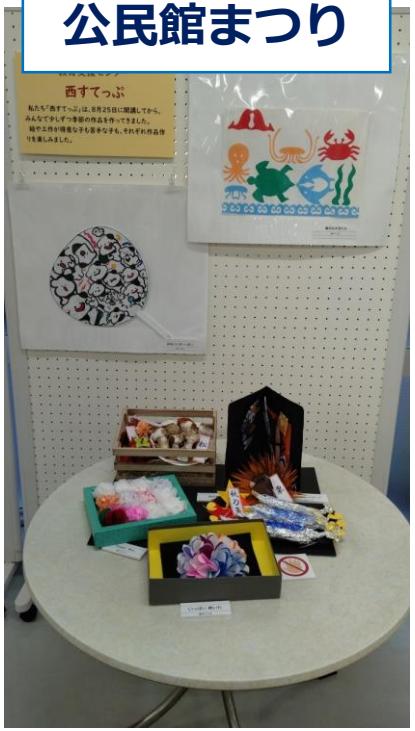
【利用児童生徒数】
４名（Ｒ６．２．１現在）

戸田市教育支援センター　「西すてっぷ」

学習スペース



公民館まつり



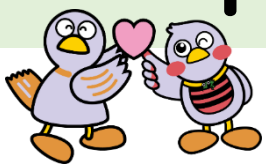
調理体験



体育体験



不登校児童生徒の支援充実に向けて





連携・協力

- ◆ （県）支援教室「いっぽ」と（市）教育支援センター「すてっぷ」との連携・交流
- ◆ 高校進学を見据えた学習支援
- ◆ 高校生との交流、保護者同士の交流
- ◆ 不登校児童生徒のカリキュラム研究

埼玉県

不登校児童生徒支援教室
「いっぽ」
- 県立高校内に設置
- 戸田市立中学校の教員がサポート

※先行事例（他自治体）等の調査

戸田市

教育支援センター
「すてっぷ」
- 民間委託での運営
- 多様なプログラムで個に応じた支援

不登校児童生徒
保護者

- 不登校生徒対応の知見を共有
- 戸田翔陽高校の知見を活用
- 戸田かけはし高等特別支援学校と連携

戸田型オルタナティブ・プラン

～誰一人取り残されない教育の実現～

〇未然防止、早期発見・早期対応、適切な支援
〇小さなサインを「科学の視点」で見つけ出す

- 校内サポートルーム「ぱれっとルーム」設置
- 大学等連携の不登校対策ラボラトリー
- 社会に開かれたネットワークの構築

不登校生徒支援教室「いっぽ」

学習スペース



教育相談スペース



【利用児童生徒数】（定員１０名）

R４：１０名（３年　５名　２年　４名　１年１名）

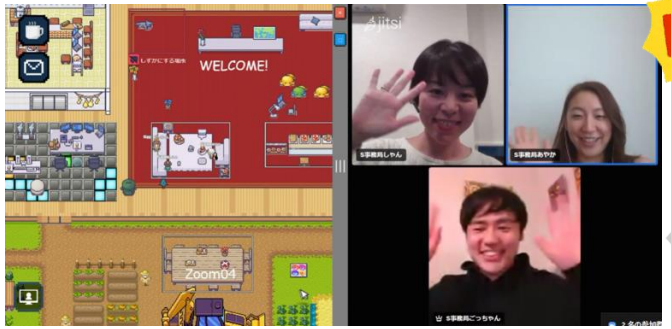
R５：　６名（３年　４名　２年　１名　１年１名）（R6.2.2現在）

R4利用の３年生は全員が進路決定。２年生は４名中３名がR5には不登校状態から相談室登校または教室復帰している。

戸田市 × 認定NPO法人カタリバ　連携

オンライン不登校支援プログラムについて

room-K　「シェア型」オンライン教育支援センター



POINT

◎オンラインの教育相談
◎オンラインの学習支援

これまで支援が届きにくかった
不登校児童生徒への手立て



R4.7.26連携協定締結
（市町村では全国初）

連携の概要

◎メタバース上での支援
◎学校・行政など、オフラインの支援者との連携
＜提供される主なサポートコンテンツ＞
①安心・安全な学びの場
②子供に合った学習機会
③一人一人の個別の支援計画・学習計画の作成
④定期的な1on1ミーティング
⑤専門家との連携
⑥保護者サポート

導入時スケジュール

R4.8	学校へ周知
	教員向け説明会
R4.8.25	支援開始（２学期開始）
R4.9.10	不登校について考える会
	（代表理事　今村様ご講演）

math channel Arschool　Qubena　zoom　Google Workspace

戸田型オルタナティブ・プラン

～誰一人取り残されない教育の実現～

〇未然防止、早期発見・早期対応、適切な支援
〇小さなサインを「科学の視点」で見つけ出す

学びの選択肢拡充「room-K」
大学等連携の不登校対策ラボラトリー
不登校理解の場　「不登校について考える会」

オンラインを活用したシェア型教育支援センター「room-K」



子供の好奇心を刺激し 学ぶ意欲の向上へつながるような空間作りを目指しています

※令和6年度　市費で予算確保（２０名分）

不登校対策ラボラトリー
「ぱれっとラボ」

2

不登校対策ラボラトリー
「ぱれっとラボ」の取組深化
不登校を科学する
戸田市教育政策シンクタンクとの連携
全人的な教育を科学の視点で捉え、支える
こども家庭庁実証事業に採択

「ぱれっとラボ」外部研究員

調査研究WG

- 加藤　弘通　氏（北海道大学教育学研究院　准教授）
- 梅村　拓未　氏（北翔大学短期大学部　講師）
- 侯　玥江（ホウ　ユエジャン）氏（秋田大学教育学部　講師）
- 谷山　大三郎　氏（千葉大学教育学部附属教員開発センター特別研究員）

効果的活用WG

- 馬場　久志　氏（日本薬科大学　特任教授）
- 東　宏行　氏（埼玉県立大学　教授）



〈主な研究内容〉

○児童生徒の実態把握や不登校等の予見や不登校対策につながる調査・分析・研究・評価を行う。
○調査研究WGでは、「ぱれっとラボ」に関する取組の効果検証をデータに基づいて行う。
○効果的活用WGでは、データに基づいて、「ぱれっとルーム」等のより効果的な活用について指導・助言を行う。

スタンドバイ株式会社との連携

データに基づく心の健康観察







心の健康観察アプリ「シャボテンログ」の活用
「ぱれっとルーム」モデル校の全児童が自分の端末で毎日、気分や体調を回答し、心の健康状態を記録する



連携の概要

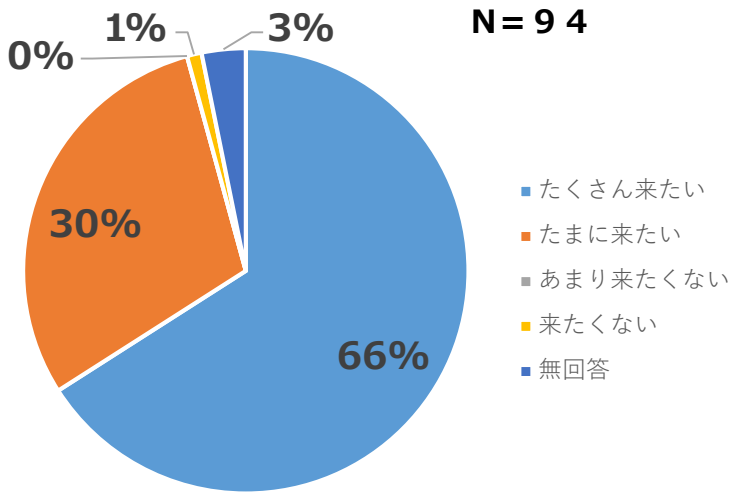
○戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」モデル校において児童に自分の健康状態を記録、把握させることにより、児童の自己管理能力を育成する。
○児童の日々の状態の変化を把握し，児童の心の健康問題の早期発見・早期対応につなげる。
○児童の状態を分析することにより、心の健康問題の予見につなげる。

「ぱれっとラボ」の具体的な取組

○「ぱれっとルーム」に係る様々なアンケート（児童・保護者・教職員等）の実施・分析
○「シャボテンログ」の導入・分析
○「より良い学校生活づくりのためのアンケート」の実施・分析（中学校２校）
○「ぱれっとルーム」訪問及び指導・助言
○小・中学校スクールサポーターへの指導・助言
○戸田市総合的な不登校対策会議における講演

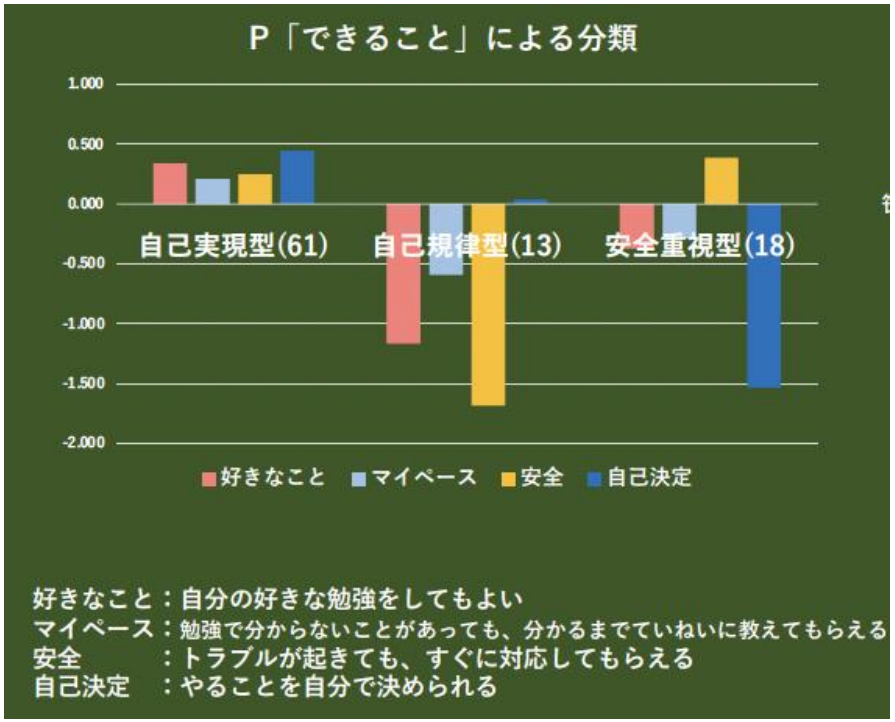
「ぱれっとルーム」の効果検証　～「ぱれっとラボ」児童アンケート調査結果より～

これからも「ぱれっとルーム」に来たいかについて



「ぱれっとルーム」利用児童の９６％が
「たくさん来たい」「たまに来たい」と回答。
なお、「来たくない」と回答した児童についても、
改善を提案する回答であった。

「ぱれっとルーム」でできると感じていることの分類

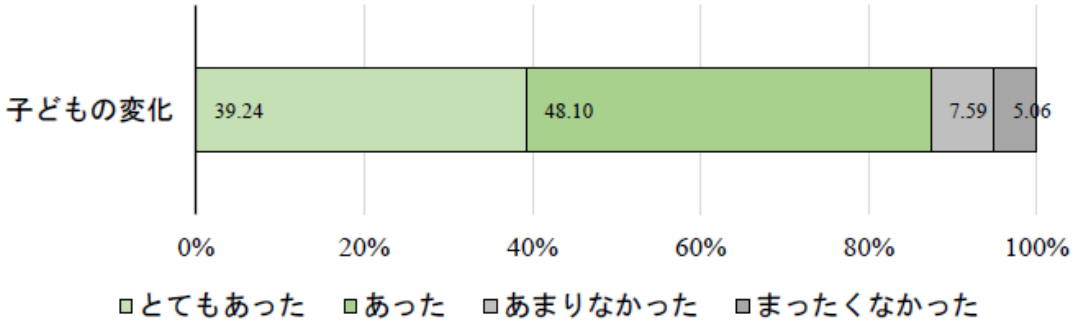


※１【自己実現型】
（ぱれっとルームは）安全な空間で、自分が好きなこと、自分で決めたやることを自分のペースでやれると答えている児童
※２【自己規律型】
（ぱれっとルームは）自分で決めたことをやるが、好きなこと、自分のペースではなく、また安全さを感じられていないと答えている児童
※３【安全重視型】
（ぱれっとルームは）自分で決めたことでも、好きなことでもなく、自分のペースでやれるわけでもないが、安全な空間であると答えている児童

自己実現型(※１)と安全重視型（※２）は子どもの居場所感を高く維持する。また、自己実現型に分類される児童にとっては、**「ぱれっとルーム」が自分のペースで安全に自己決定ができる場になっている**と考えられる。

「ぱれっとルーム」の効果検証　～「ぱれっとラボ」保護者アンケート調査結果より～

「ぱれっとルーム」利用児童の保護者が感じた子供の変化



N＝８０

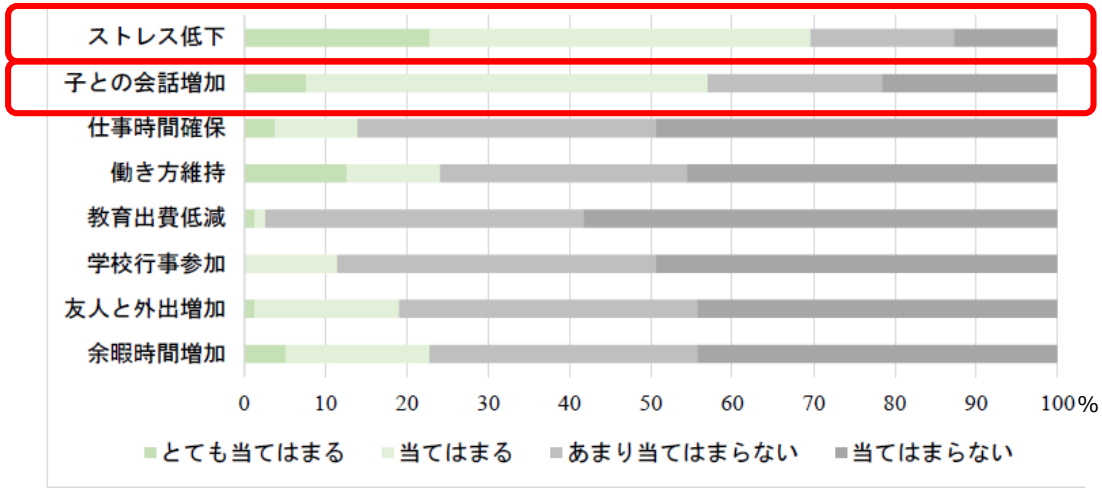
肯定的な変化が見られた主な項目

約９割の保護者が変化を感じている。

子供の居場所感の確保や精神的な安定性など肯定的な変化と回答

利用児童が学校の楽しさを感じて、不登校傾向が減ったことで、できることが増え、自主性につながったとする回答が多かったと考えられる。

「ぱれっとルーム」利用児童の保護者が感じた生活の変化



N＝８０

肯定的な変化が見られた主な項目

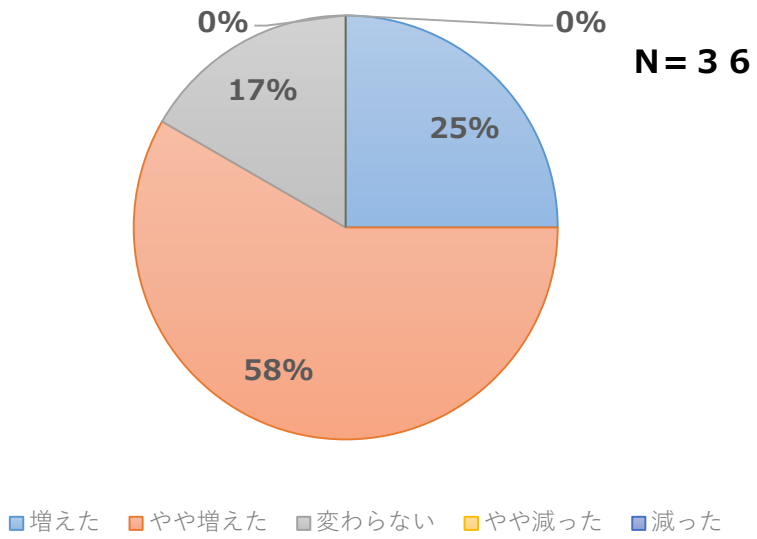
保護者の精神的ストレスの低下
約７割

子供と会話する時間が増えた
半数以上

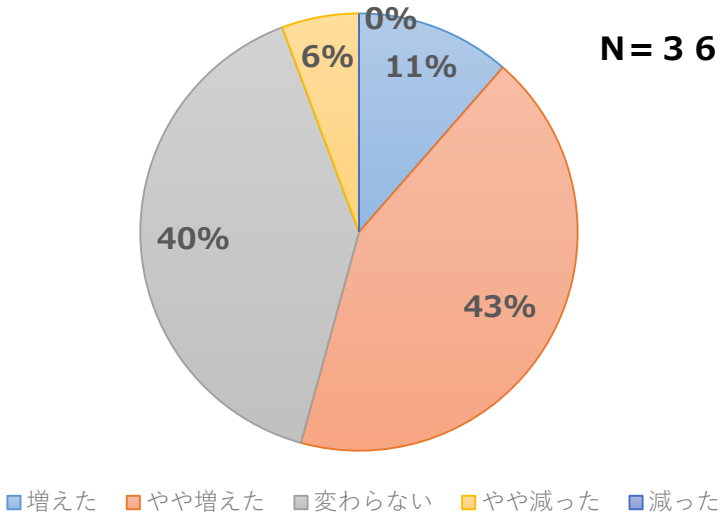
「ぱれっとルーム」をきっかけに子供が登校したことなどから、子供との会話が増えるなどの関係の変化が生まれ、保護者の精神的ストレスの低下などにつながっていると考えられる。

「ぱれっとルーム」の効果検証　～「ぱれっとラボ」教職員アンケート調査結果より～

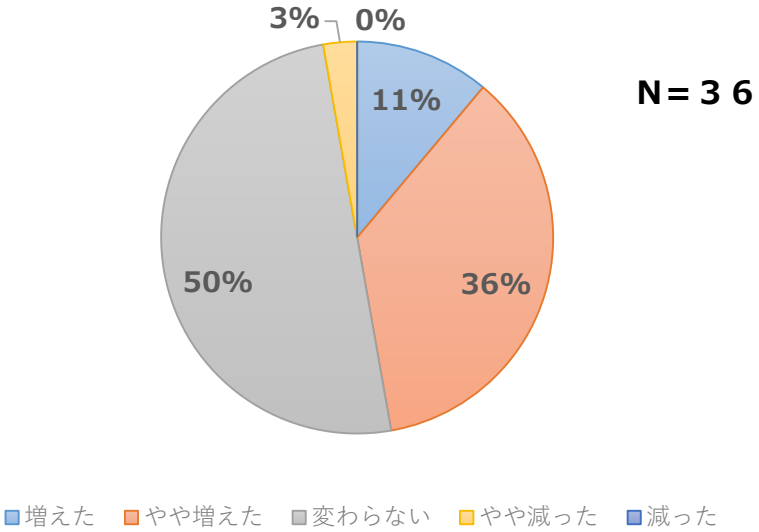
担任における「ぱれっとルーム」利用児童に関する他の教職員と話す機会について



担任における「ぱれっとルーム」利用児童と関わる機会について



担任における「ぱれっとルーム」利用児童に関する保護者と関わる機会について



８割以上の担任が「ぱれっとルーム」利用児童について他の教職員と話す機会が「増えた」「やや増えた」と回答

約半数の担任が「ぱれっとルーム」利用児童との関わりが「増えた」「やや増えた」と回答

約半数の担任が「ぱれっとルーム」利用児童の保護者との関わりが「増えた」「やや増えた」と回答

「ぱれっとルーム」をきっかけとして、利用児童やその保護者と関わるきっかけとなっている。また、教職員の組織的対応につながっていると考えられる。

全ての子どもたちに学びの機会を！

「戸田型オルタナティブ・プラン」を推進中！

市では、不登校児童生徒への支援として、子どもたちが誰一人取り残されずに学習できる環境を整えるためのさまざまな取り組みを進めています。

問い合わせ　教育センター　434-5660

オルタナティブとは　「新たな」「代替の」という意味があります。「子どもたちに新たな居場所を」という願いをこのプランに込めています。

令和５年度 戸田型オルタナティブ・プランの特徴

❶ 多様な学びの場の拡充

市では、全ての子どもたちに学習の機会を保障するため、さまざまな学びの場を用意し、一人ひとりの児童生徒に合った学習環境を整えています。

New! 令和5年度は南部福祉センター内に、新たに教育支援センター（通称：すてっぷ）を開設し、さらなる学びの場の拡充に取り組みます。

❷ 不登校対策ラボラトリー

不登校について専門的な知識を持つ有識者（大学の教授など）の助言をいただき、「ばれっとルーム」を利用する児童や保護者、教職員の意見を参考に、「ばれっとルーム」などのよりよい環境づくりに努めています。

また、アンケート結果などのデータ分析を通して、不登校の早期発見・早期対応につなげています。



❸ 理解の促進・相談の充実

身近な場所で相談できるよう、全小・中学校にスクールカウンセラーを配置しているほか、教育センターでは就学や不登校などについて、心理カウンセラーに相談ができます。

New! 相談時間：午前9時～午後5時（月曜、祝日を除く）、水曜は午前9時～午後7時
※引き続き土日の相談も受け付けています。
※令和5年度から教育センターでの心理カウンセラーによる相談対応時間を、水曜日のみ午後7時までに延長しています。

また、不登校について皆さんと一緒に考えるために、シンポジウム「戸田市不登校について考える会」を9月9日(土)に実施します。

多様な学びの場があります！

●ばれっとルーム 小学生

市内小学校全12校に設置している校内サポートルームです。何らかの理由により教室に行きづらさを感じている児童の生活や学習の場で、一時的なクールダウンの場所としても利用できます。



●戸田翔陽高校内 生徒支援教室いっぽ 中学生

県教育委員会と連携し、市内の中学生を対象にした不登校生徒支援教室を戸田翔陽高校内に設置しています。高校進学を見据えた学習支援や、不登校児童生徒カリキュラム研究、カウンセラーによる授業支援をしています。



●市教育支援センター すてっぷ 小学生 中学生

教育センター内に、学校へ行きづらさを感じている児童生徒の学びの場を設置しています。



●さわやか相談室 中学生

市内中学校全6校に設置している相談室です。家族や学校の先生には話しづらい悩み相談などを受け付けています。



●メタバースを活用した不登校支援 room-K 小学生 中学生

提携NPO法人カタリバと連携し、オンライン上のシェア型教育支援センター「room-K」により、学校へ行きづらさを感じている児童生徒のオンラインでの教育相談・学習支援を行っています。



戸田市
不登校について考える会
～一人ひとりを大切に～

令和５年
９月９日（土）
開会10：00（受付9:40）
戸田市文化会館３階 会議室３０１

申し込みフォーム
（QRコード）
申し込み締め切り
9月4日
<URL>
https://forms.gle/jrw8nBgZrr7JTMUV9



タイムスケジュール

10：05～11：05　基調講演
「不登校の子が新しい一歩を踏み出す時」
講師：NPO法人全国不登校新聞社
代表理事 石井 志昂　様

11：15～12：00　シンポジウム
コーディネート：学研エル・スタッフィング
※戸田市教育支援センター「すてっぷ」運営

12：00～13：00　個別相談会（文化会館・教育センター）
フリースクールやサポートルームなど、学びの選択肢について相談することができます。（1組10分程度）

＜お問い合わせ＞
戸田市立教育センター
☎ 048-434-5660

戸田市教育委員会主催

令和５年度　戸田市教育相談充実構想

小学校スクールカウンセラー
全12校週２回配置　年90回
○児童、保護者等の相談　○教室訪問
○教職員への助言　○教職員研修の実施
○ケース会議等への参加　○発達検査の実施

中学校スクールカウンセラー
拡充
県費3校週1回、3校隔週配置
市費6名、年４０回配置
○中学校区の児童生徒、保護者等の相談
○関係機関との連携　○教職員への助言

ピアサポーター
大学生ボランティア

スクールサポーター
小学校「ぱれっとルーム」に１名配置　年１６９日
中学校　各校に１名配置　年２２０日
○不登校対策支援　○ぱれっとルーム運営（小）
○校内巡回　○学習補助　○生徒指導対応

さわやか相談員・ボランティア相談員
さわやか相談員6名　週5日
ボランティア相談員12名 週2～3日
○中学校区の児童生徒、保護者等との相談
○教育センター・SC・SSWとの連携

各小・中学校
「切れ目のない支援」「きめ細やかな支援」
一人一人の多様なニーズに応じた教育相談
【重点事項】
①専門性のある人材の安定的な確保
②気軽に相談できる体制づくり
③不登校児童生徒支援の充実

スクールソーシャルワーカー
各中学校週1日配置 ※県費2名・市費１名
○不登校への対応　○児童生徒虐待への対応
○家庭訪問対応　○福祉との連携

「シェア型」オンライン教育支援センター
認定NPO法人カタリバと連携
○オンライン不登校支援プログラム
○オンライン教育相談・学習支援

拡充 教育心理専門員
平日及び土日に配置 週4~5日 年200日程度
○児童生徒、保護者等の相談　○早期就学相談
○発達検査の実施　○5歳児発達健診での相談

SNS教育相談
専門カウンセラー が対応
○SNS相談　17時から21時を想定
（７月開始）



教育相談コーディネーター
平成30年度から1名配置　年171日
○学校及び各関係機関との相談機能の連携・強化
○総合的な教育相談体制の構築
○すてっぷとの連携・相談員の支援

日本語指導員
５名配置　　週1～3日
○市内小・中学校への日本語の訪問指導及びサポート
○日本語指導が必要な児童生徒等へのアセスメント
○日本語指導が必要な児童生徒及び保護者との相談
※別途日本語指導教員5校配置

新規
R５より西部地区に１教室増設

生徒支援教室 「いっぽ」
月～金　10：00～15：00　金は教育相談
○埼玉県教育委員会設置
○個別学習（いっぽのスタッフが支援）
○体験活動（栽培活動・高校生等との交流等）
○戸田市教育委員会との連携事業

教育支援センター「すてっぷ」
平日10：00～15：00　年１９０日程度
○戸田市不登校対策支援の拠点
○不登校児童生徒に適した支援プログラムの実施
○不登校児童生徒の保護者支援
○アウトリーチ型支援の研究と実践

心の教育アドバイザー
平成30年度から１名配置
○小・中学校、幼稚園・保育園と連携・訪問・相談
○福祉、医療等と幅広く連携した早期就学相談
○一人一人の教育的ニーズに応じた就学相談

戸田型オルタナティブ・プランの更なる推進

（令和６年度（案））　～誰一人取り残されない教育の実現～

◆「未然防止」「早期発見・早期対応」「適切な支援」のための選択肢
◆「リアル」と「デジタル」の両面からの支援の充実、各居場所の有機的な連携の強化

1 多様な学びの場の拡充 不登校を支援する

児童生徒の心理的安全性を高め、学びに向かえる場所の選択肢を拡充

多様な学びの場の有機的連携

- 埼玉県教育委員会との連携推進　（生徒支援教室**「いっぽ」**）
- シェア型オンライン支援**「room-K」**の継続
- 中学校**さわやか相談室の環境充実**
  （国の予算活用も含め検討中）
- 教育支援センター**「すてっぷ」「西すてっぷ」**の有機的連携



2 不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」の取組深化 不登校を科学する

戸田市教育政策シンクタンクとの連携
全人的な教育を科学の視点で捉え、支える

市長部局など関係機関との連携

- 不登校対策ラボラトリー**「ぱれっとラボ」による効果検証**
- **「ぱれっとルーム」**訪問等を通して、指導・助言（研究を現場へ）
- **「教育総合データベース」**を活用した、不登校や傾向のある児童生徒の早期発見・早期対応
- **「WEB-QU」の小学校全校実施**
- 多様な学びの場の利用者数の推移調査・分析
  多様な居場所の効果検証



3 社会に開かれたネットワークの構築（教育相談体制を拡充） 不登校を理解する

地域や保護者の理解を深め、協働の機運醸成を図る

委託・連携事業等との関係強化

- **「第３回戸田市不登校について考える会」**の実施
- 教育センターの教育相談対応時間の拡充
  教育センターでの心理カウンセラーによる相談の充実
  土日に加え　水曜日夜間（午後７時まで）にも相談できる体制
- 民間団体との連携による支援体制の検討
- 広報誌等を活用して、広く市民に取り組みを紹介